

家庭科

昨年度の取り組みと成果と課題

【 成果 】

- ・家庭科ボランティア（学校支援地域本部）の協力を得て、調理と裁縫の実習ではきめ細かい指導ができた。一人一人の様子が見とれ、多くの児童に、技能の基礎基本を、確実に身に付けさせることができた。
- ・家庭生活における衣・食・住について、実習を通して学習することで、興味をもって学習に取り組み、理解を深めることができた。
- ・自分たちにとって身近な学習内容が多く、意欲的に学習に取り組むことができた。

【 課題 】

- ・衣食住にわたって、家族の一員として家庭生活に関わっているという意識はまだ低く、学習したことを生かし、工夫して実践することまではなかなかできていない。
- ・調理や裁縫の技能の習得は個人差が大きい。

学習状況の分析

○知識・技能

- ・裁縫では、基礎的・基本的な技能を身に付けている児童もいるが、個人差が大きい。
- ・調理では、家庭生活の中での経験によって技能の差が大きい。
- ・家庭生活の変化などから、家事の簡便化が図られ、日常生活の中で十分な知識や経験を得ることができていない児童が多い。

○思考・判断・表現

- ・日常生活の中で意識的に創意工夫する場面はまだ少ない。しかし、学習の中で掃除や洗濯などの実習場面では話し合って工夫したり、経験を生かして創意工夫したりする様子も見られる。

○主体的に取り組む態度

- ・実習には意欲的に取り組む児童が多い。学習したことを家庭で実践する児童も見られる。一方で、学習したことを活かして実践するところまでは至っていない児童が多い。

授業改善のポイント（観点別）

【 5年生 】

○知識・技能

- ・手縫いとミシン縫いの基礎や、ボタン付けの方法を知り、簡単な作品の製作を通して生活に生かせる楽しさを味わわせ、技能を確実に身に付けさせる。
- ・ゆでる調理方法の基本を身に付け、調理を身近に感じさせ、取り組ませるようにする。
- ・家庭科ボランティアの協力を得て、きめ細かく指導する。

○思考・判断・表現

- ・お金の使い方や、季節に合わせた着方や住まい方を学習することで、自分でも工夫できる生活改善があることに気付かせる。
- ・家族と過ごす時間の大切さを知り、家庭で団らんの時間をつくれるようにする。

○主体的に取り組む態度

- ・高学年となって新しく始まる学習に対して、楽しく取り組めるようきめ細かくオリエンテーションを行い、学習内容についての理解を深めさせ、用具などについても十分な準備をさせる。
- ・授業を通して行ったことを家庭で実践していけるよう、保護者の協力も得て、家庭生活と学習したことをつなげるようにする。

【 6年生 】

○知識・技能

- ・調理実習では、事前に映像資料等も活用して手順を確認し、見通しをもって実習に取り組めるようにする。
- ・裁縫が苦手な児童が多いため、玉止めや玉結び等、基本的な技能についても、繰り返し復習しながら、新しいことを指導していく。
- ・児童同士がより良い方法に気付くよう、交流の場面を設定する。
- ・技能の確実な定着を図るためにも、個別での指導を行う。
- ・家庭科ボランティアの協力を得て、きめ細かく指導する。

○思考・判断・表現

- ・調理や住まい方の学習では、自分の家庭生活を踏まえ、タブレットを用いて献立を考えたり住まい方を工夫したりさせる。
- ・製作では、家庭生活を踏まえて作りたいものを考え、各自で自分に合った計画を立て、取り組ませるようにする。
- ・家庭生活の仕方は地域とのつながり、国際社会や情報社会とも深くつながっていることにも気付かせる。

○主体的に取り組む態度

- ・裁縫実習では、ゴールイメージをもって活動に取り組めるよう、手本を示す。
- ・5年生で学んだことを生かして、より家庭生活の向上を目指して主体的に学習できるよう、課題を明確に提示する。